



問 上下水道事業の今後について

答 行財政事情も踏まえ水道事業の持続性を確保しなければならない

既成の枠にとらわれず将来を考えよう。

問 昨年、農業集落排水を公共下水へ統合した上で他流域下水道へ接合させる管路試案の説明を受けたが、その後の進展状況は。

上下水道課長 引き続き関係機関と調整中です。茨城県とは公共下水道全体計画変更案の承認に向けて調整しています。承認後、農集の財産処分に着手する予定です。また、近隣の流域下水道接続のための調整では、流域下水を構成する市町の詳細を得ることを含め解決すべき課題についてご意見をいただいたところです。今後適宜、議会、審議会などのご意見をいただきながら進めてまいります。

問 水道事業の将来の姿については、現在の埼玉県水の受水を維持しながら、新たに緩速ろ過方式の浄水場を建設して既存の施設に取って変える案も検討に値すると考えるが。

上下水道課長 緩速ろ過方式の浄水処理方法については一般的な概要について確認しております。現在、令和2年度、令和3年度において浄水施設の増設工事および各種設備の更新を行っております。今後、管路の耐震化、老朽管路の更新が必要であり、広域化あるいは強靱化への対応も考慮すべき段階にあります。ご提案の緩速ろ過方式については、五霞町に置き替えた場合のメリット、デメリットなどを検討してまいりたいと考えております。

問 上下水道事業と財政の将来を考えると、従事する役場職員の人員数確保と複数のプロパー（専従者）が必要不可欠ではないか。

総務課長 様々な事業において専門性を有する職員が求められている現状にあります。特に、水道事業においては水道法の規定に基づく、水道技術管理者の資格を現在4名が取得しております。ご指摘のとおり上下水道事業に係る業務を遂行するためには専門知識や技能を有する職員の配置が不可欠です。職員全体の人事管理の中で専従職員の配置を検討するとともに長期的視点で人材育成できる組織体制づくりに努めてまいります。

～緩速ろ過と急速ろ過～

川などから取り入れた水を飲み水にするには、細かい砂の層を通してろ過しますが、この方法には「緩速ろ過」と「急速ろ過」という2通りがあります。

緩速ろ過は、原水を砂の層にゆっくり通過させて、砂の表面の微生物や藻類の働きを利用して水の濁りや細菌などを取り除く方法で、薬品や電気の使用を抑えられますが、ろ過速度が遅く、ろ過池は大きな面積が必要となります。

急速ろ過は、原水に凝集剤という薬品を入れ濁りを沈殿させてから、うわ水を砂の層に通す方式で、薬品・電気代はかかりますが、ろ過速度が早く、ろ過池は少ない面積ですみます。

